

樽前山

1 概況

A 火口やB 噴気孔群は高温の状態が続いており、火山活動は引き続きやや活発な状態です。火口近傍では注意が必要です。

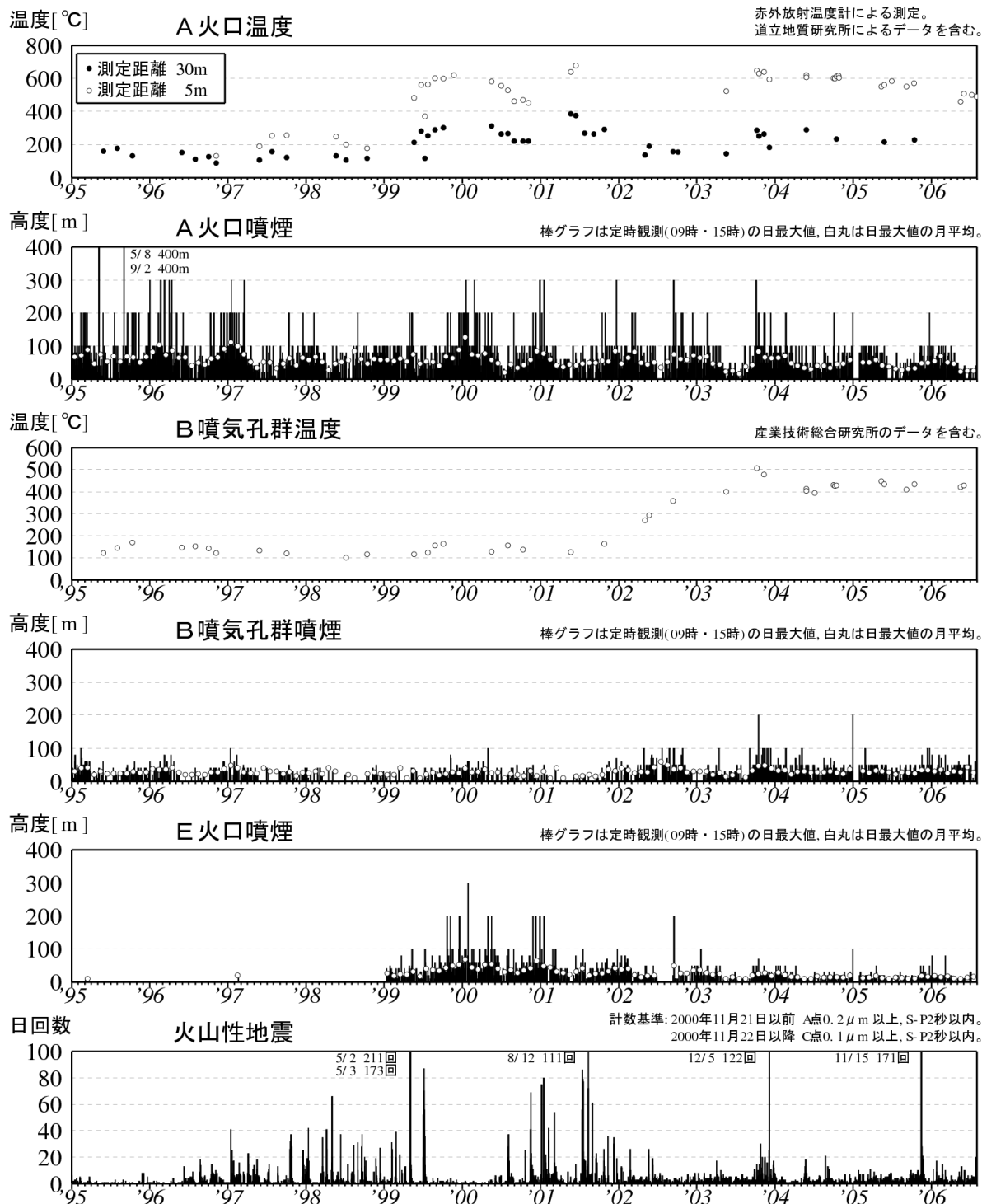


図1 樽前山 最近の火山活動経過図(1995年1月～2006年7月)

樽前山の火山活動解説資料は気象庁の他に、北海道のデータも使用して作成しています。本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています。(承認番号 平 17 総使、第 503 号)

2 噴煙および火口の状況

各火口の噴煙の状況は前期間と大きく変わらず、噴煙の高さは火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。

9 日に産業技術総合研究所が行った現地調査では、A 火口の最高温度は約 500℃、30 日の札幌管区気象台の調査観測でも約 490℃（前回 6 月 1 日の観測では約 510℃）を観測するなど、火口内の熱的な状態に変化はなく依然として高温の状態が続いていました。

25 日に北海道開発局の協力を得て実施した上空からの観測では、ドームおよびドーム周辺の火口や地熱域の状況に変化はありませんでした。赤外熱映像装置*による観測では、A 火口、B 噴気孔群および D 火口に対応する高温域が引き続き認められました。

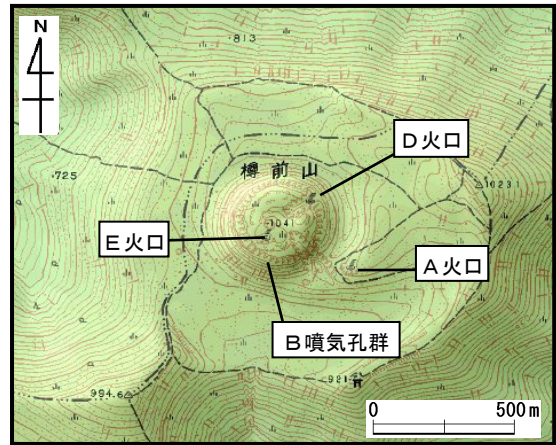


図 2 樽前山 山頂火口周辺図



図 3 樽前山 南東側から撮影した A 火口
(2006 年 7 月 30 日)



図 4 樽前山 南西側から撮影した B 噴
気孔群 (2006 年 7 月 30 日)

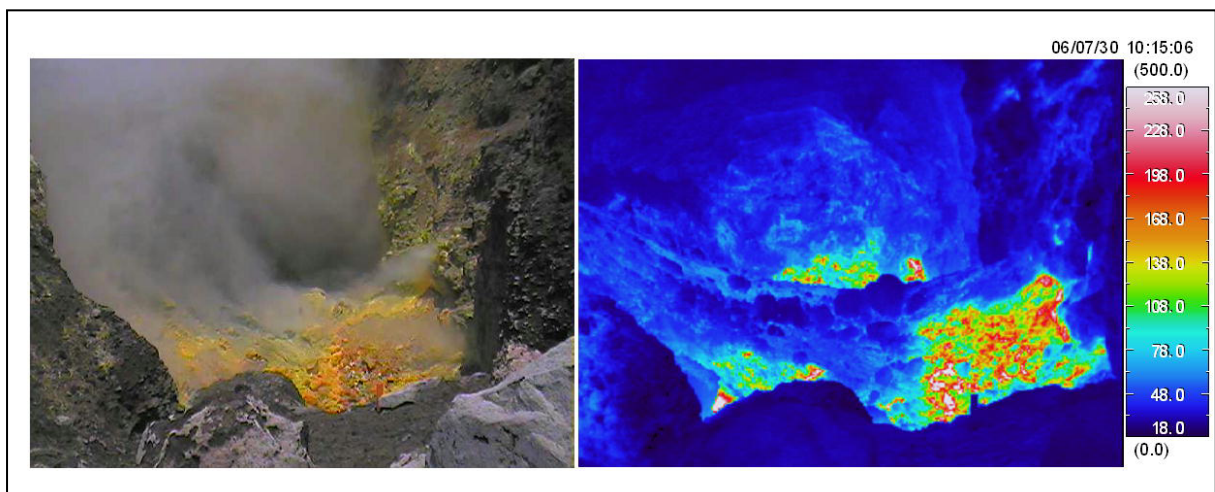


図 5 樽前山 南東側から撮影した A 火口の表面温度分布 (2006 年 7 月 30 日)

* 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

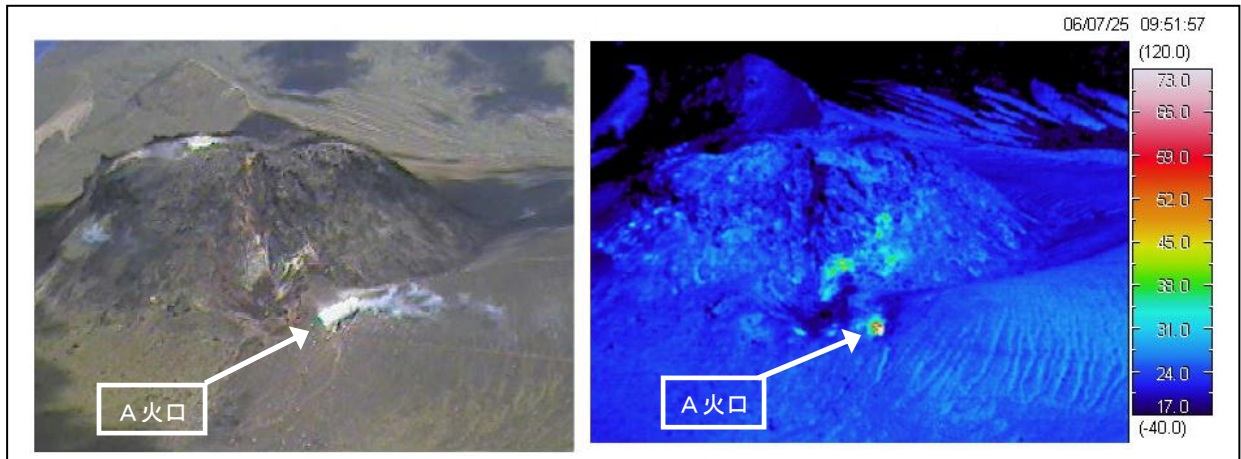


図 6 樽前山 南側上空から撮影した溶岩ドーム (2006 年 7 月 25 日撮影、北海道開発局の協力による)

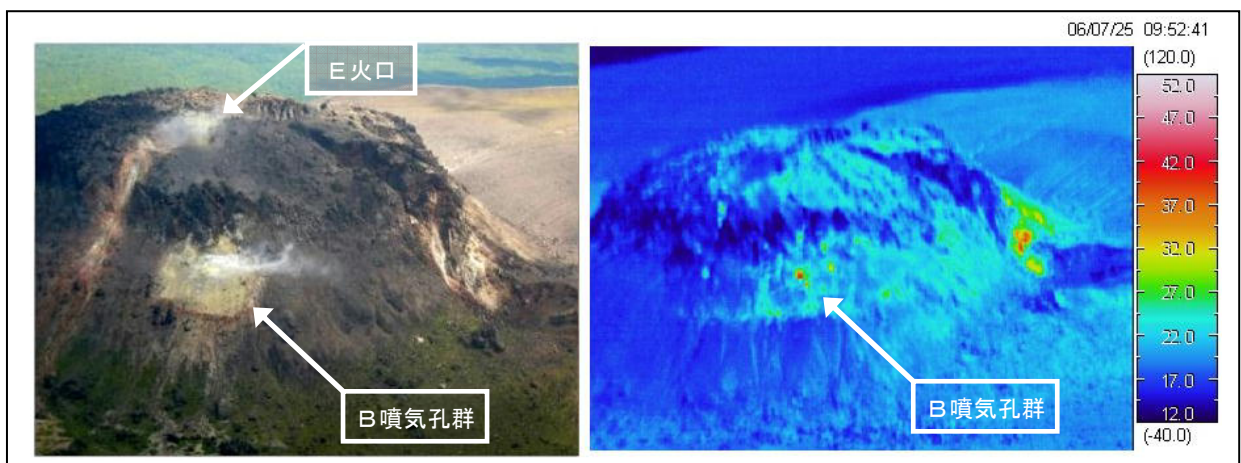


図 7 樽前山 南西側上空から撮影した溶岩ドーム (2006 年 7 月 25 日撮影、北海道開発局の協力による)

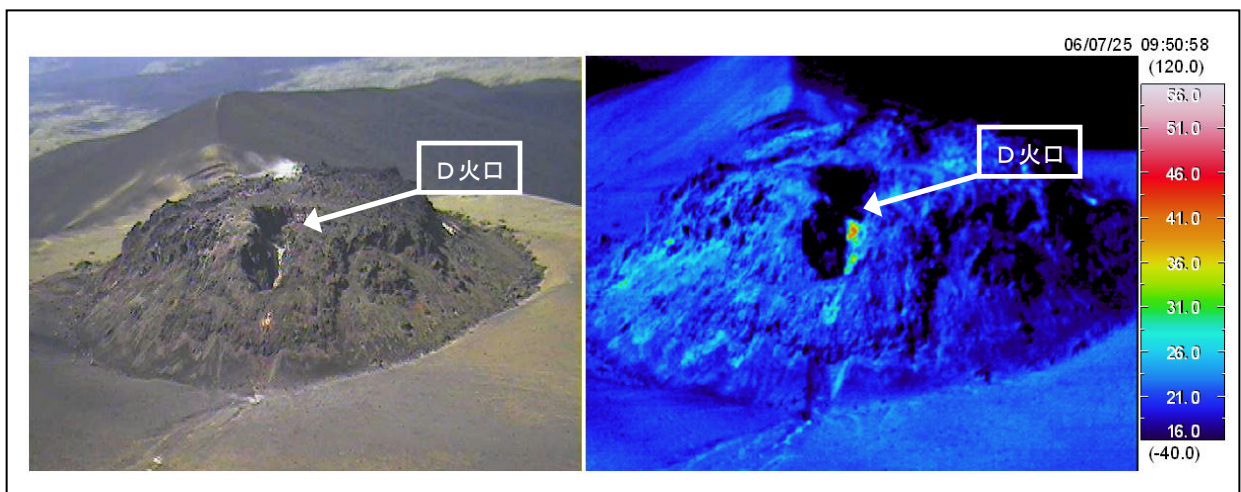


図 8 樽前山 北東側上空から撮影した溶岩ドーム (2006 年 7 月 25 日撮影、北海道開発局の協力による)

3 地震および微動の発生状況

火山性地震は 27 日及び 31 日に一時的にやや増加したほかは、1 日あたり 0~6 回と少ない状態で経過しました。震源はこれまでと同様、山頂ドーム直下のごく浅い所 (山頂から深さ約 0.5~1km 付近) に集中していました。火山性微動は観測されませんでした。

表 1 樽前山 地震・微動の月回数 (C点)

2005~2006年	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
地震回数	46	50	96	349	38	60	77	45	32	75	61	105
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

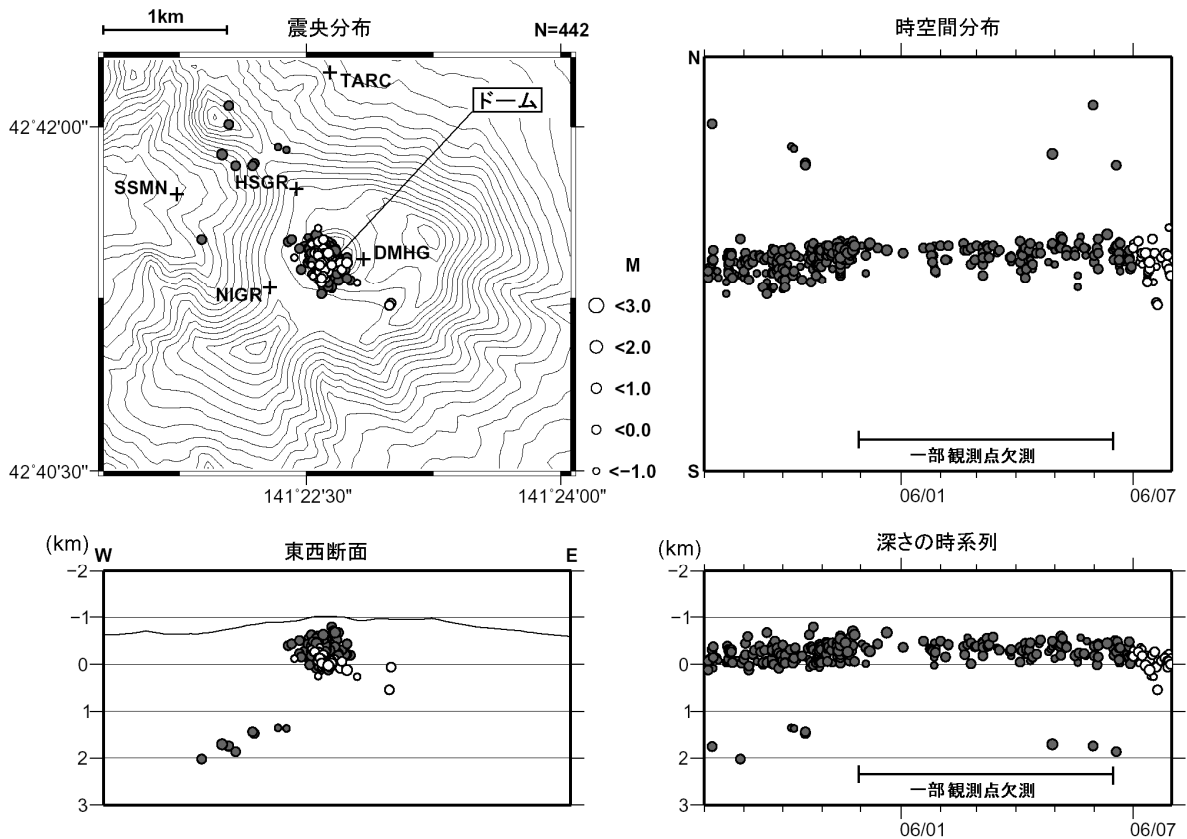


図 9 樽前山の震源分布図 (丸印：震源、+印：地震観測点)

○印は今期間(2006年7月)に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの11ヶ月間(2005年8月~2006年6月)に求まった震源を示しています。

前期間までの震源は山頂ドーム直下のごく浅い所 (山頂から深さ約 0.5~1km 付近) に集中し、ドームの北西及び西約 1.5km 付近の浅い所 (山頂から深さ約 2.5km 付近) にも分布しています。今期間に求まった震源は、山頂ドーム直下のごく浅い所 (山頂から深さ約 0.5~1km 付近) に集中しています。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動に関連すると考えられる変動は観測されませんでした。

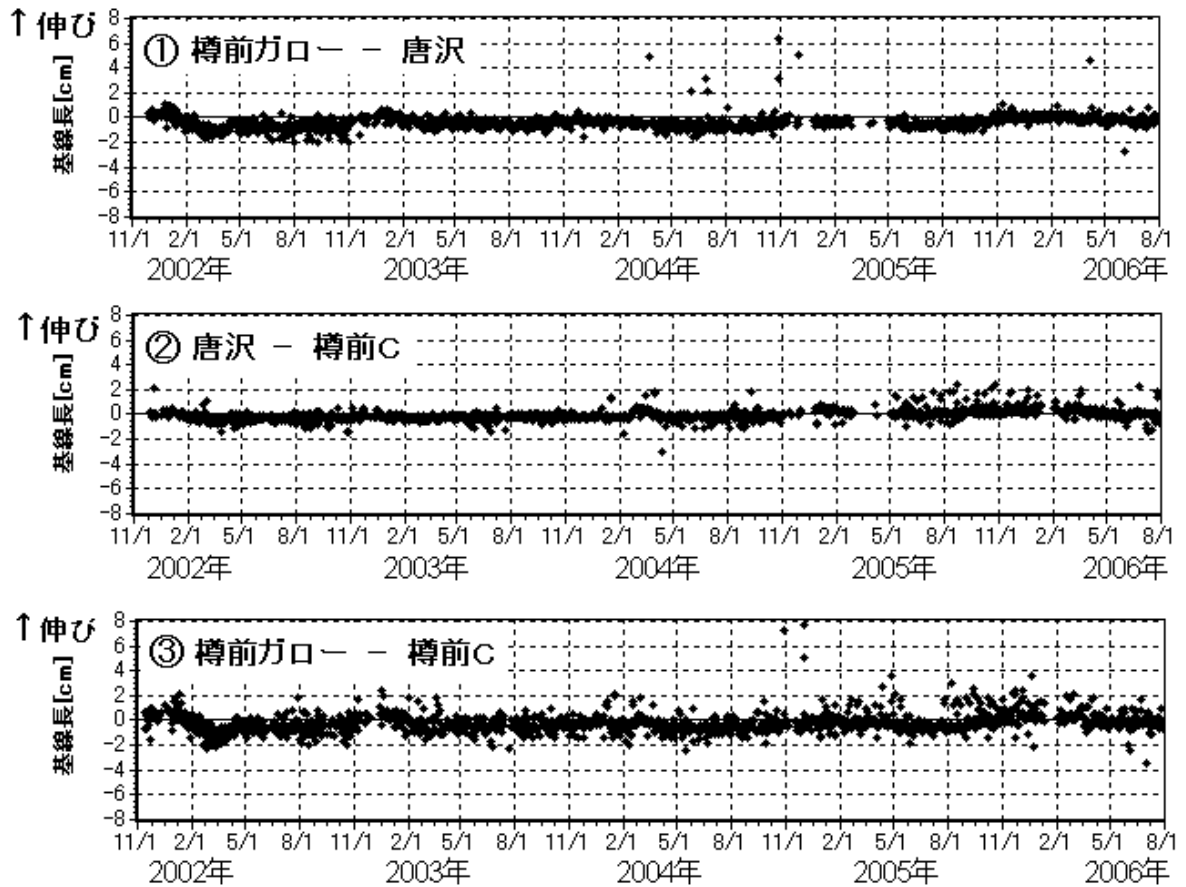


図 10 樽前山 基線長変化 (2001 年 11 月 14 日～2006 年 7 月 31 日) グラフの空白部分は欠測

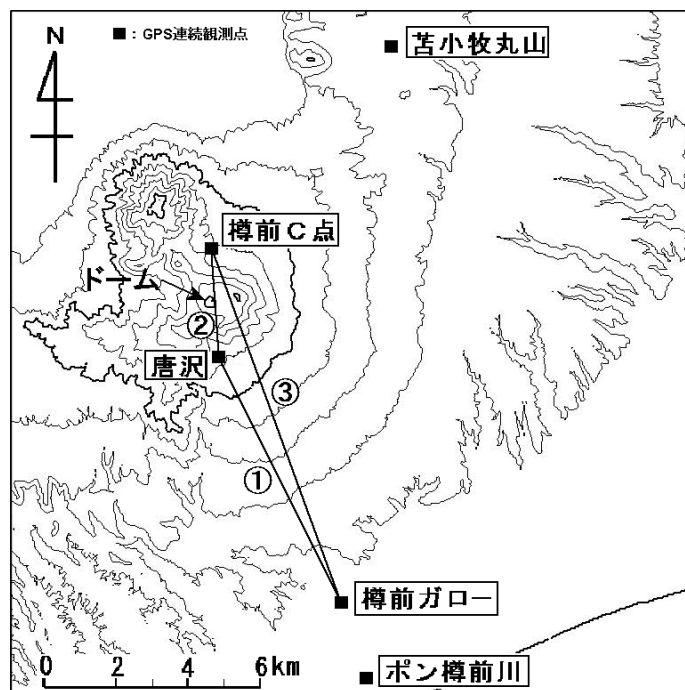


図 11 樽前山 GPS 観測点配置図